

日韓キリスト教「障害者」合同交流セミナー（主催：日本キリスト教協議会・韓国基督教協議会）が日本聖公会仙台基督教会で開催され、伊藤めぐみが出席しました。日本側42名、韓国側20名が、それぞれの体験に基づく発題やグループ討議を行いました。川上直哉・東北ヘルプ事務局長（仙台北三番町教会牧師）の基調講演を要約して紹介します。

## 障害者と災害

川上直哉

### 東北ヘルプ発足

津波で亡くなった神父の葬儀に集まった人たちの間で、「何かしなければ」という思いがつのり、「東北ヘルプ」が発足しました。在日大韓基督教教会から、在日外国人支援をしたいという申し出があり、NCC、研究者、人権活動家らを東北ヘルプがつなぐかたちで活動が進められていきました。

### 外国人被災者の支援

被害は隠れた外国人を浮かび上げさせました。東北には「花嫁」として来日し、外国人と認識されることなく暮らしている人がたくさんいます。その多くは日本語の理解が難しいため、避難所で突然、自分が少数者であることを認識し、

孤立し、追いつめられました。

被災から数年後に開催されたシンポジウムで、彼女たちから「私たちが外国人と呼ばないで」という発言がありました。これまで村の一員だったのに、支援を受けることによつて「外国人」になってしまったというのです。「あなたは外国人だから」と、親切や正義を押しつけることで、かえつて苦しみを与えてしまうこともあるのです。悩む人とともに生き、その人の息づかいを知り、何が求められているかを知って、はじめて援助ができるのです。

### 原子力被災者の支援

私の住む仙台でも事故から2か月の間に270億ベクレルの放射性ヨウ素が降り注ぎ、娘2人に国際的年間被ばく許容量の120倍の被ばくをさせてしまいました。早期に避難させなかったことを後悔しています。福島や宮城の親たちの多くが同じ思いを抱いています、苦しみの中で、神さまが一緒に

### 新入会員紹介



くらわき 鈴木庫明さんが4月に入会しました。

## お便り

小川孟

良子さんは相変わらず東奔西走ですか？ F I W Cの継続はA F S Cの唯一の遺産と言つてもいいでしょう。「行動するキリスト教」を体現するスタッフたちとの交流が、戦争帰りの若者だった僕を社会福祉の道へ導いてくれました。

岡山県津山市の施設を手伝っていた頃、津山にキリスト教図書館があることを知り、訪れたところ政池さんのお父さまがかつて訪問

にいてくださると信じていることができるかが問われています。

### 自助・互助・公助

公助とは官が行う援助だから限界があります。そこで自助と互助が必要となります。しかし、互助は時として傷つけることがあります。自助は無理なことがあります。互助は助けてもらう側が無力であることを認識し、助ける側の人を受け入れることによつて成り立ちます。援助を必要としていても、自分の力に頼ろうとすれば、互助はかみあわなないので。被災者は自分の無力をさらけ出し、よそ者を受け入れ、無神経で無礼な支援者の行為までもゆるしてくださる。

された記録を見ました。「謹厳実直」が背広を着たような鮎沢巖先生のやさしい話しぶりもよみがえってきます。

梅雨の季節は、外出の足となる電動車椅子には苦手です。週1回のヘルパーさんの掃除や息子の嫁さんたちの給食支援、週2回の訪問リハビリで日常生活（ADL）自立という状態です。

天気が良ければ、週2回程度、家内の見舞いにも自力で電車を利用して出かけています。

何もできないところに神様は一緒にいてくださる。そこに大きな力「無力の力」が現れるのです。

支援者は自分が受け入れてもらい、ゆるされていることを知って、初めて押しつけない意味のある援助になります。福島ろう恵み教会の会員から「ここで起こったことを知ってほしい。ただそれだけ」と言われました。それは「神さまがこの苦しみの中で何をしておられるかを知ってほしい」ということだと思えます。

### 発行

キリスト友会東京月会  
住所・東京都港区三田4-8-19  
TEL・FAX・03・3451・7002  
メール・mail@kristuoyukai.org